

時代の流れの中で舵取りを —全国音訳ボランティアネットワークが 第8回総会をZoomによるライブ配信で開催

全国音訳ボランティアネットワーク（以下、音ボラネット。会員数は団体180、個人216人など）の第8回総会が、6月8日、東京ボランティア・市民活動センター（新宿区）内の会場を配信スタジオとして、初めてのZoomによるライブ配信方式で開催された。新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が10都道府県に発令される中、地方によっては予定していた会場が使用できなくなるなど縮小を余儀なくされたが、当日は、全国から38グループのほか、個人会員など約70人が参加した。（本誌）

当事者の皆さんからも声を

開会の挨拶に立った藤田晶子代表は、まず、「第8回総会が開催できたことを、ともども喜び合いたい」と述べ、「今まで走り続けてきたのに、ここでお休みしてしまっただけは大変」、「こういう時だからこそ、事務局の頑張っている姿を見ていただきたい」と、総会にかける思いを語った。

次に、「私たちの活動は、視覚障害の方々への情報支援です。私たち音訳者が高齢化し、募集しても若い人が入ってこない、こういう状況が続くなら、音訳は存続できるのでしょうか？」と警鐘を鳴らした。藤田代表は現状を打開するため、文部科学省や厚生労働省に何度も足を運んで陳情したが、「それはあなたの思いであって、視覚障害者からそのような声を聞いたことがない」と回答されるのが常であった。そこで、「私たちもこうい